

馬尿酸試験

(Quick : Am J Clin Pathol 10 : 220, 1994)

生体に投与された**安息香酸ナトリウム**は肝細胞に摂取され，ATP と CoA の存在下でベンゾイル-CoA に変換され，さらに**グリシンと抱合し馬尿酸**となって血中に出て，尿中に排泄される．これらの肝内代謝系の低下，グリシン・補酵素などの減少のある場合には，馬尿酸合成が減少し，尿中排泄量が低下する．

本試験は，胆道の排泄機能に影響されることが少ないために，黄疸時の肝機能検査に適しているが，馬尿酸の尿中排泄量は腎機能に影響されるので判定には注意が必要である．

測定法

静注法と経口法とがあるが，前者が多く用いられる．詳細は石井らの方法（臨床病理 5 : 167, 1957）を参照．